

水道橋病院長定年退職のご挨拶

柿澤 卓

この度、5月末日をもちまして水道橋病院長を辞し、定年退職を無事に迎えることになりました。これも偏に、本院へ大切な患者様をご紹介下さいます先生方のご支援の賜と、衷心より感謝いたしております。

さて私は、昭和44年に本学を卒業して以来、学部就学期間を含めると、何と45年間もの長きにわたって水道橋に通ったことになります。それに加え昭和57年に大学が千葉へ移転してからは、口腔外科であることもあり、特に先生方との接点は誰よりも濃かったのではないかと自負しております。

私は、平成16年6月に前金子病院長（現学長）の後任として院長を拝命し、2期6年間現職を勤めさせて頂きました。就任してからは、病院の理念として「思い遣りの心に依る医療」を掲げて、自分なりに努めてきたつもりでございます。その間、先生方のご協力の下に、より良い病診連携の構築を目指してまいりました。その根本的な考えは、先生方とわれわれ大学病院との違いは、決してレベルの差ではなく、単に医療区分の守備範囲の違いでしかないかということです。

そのような訳で、水道橋病院は大きな歯科診療所ではなく、先生方のバックボーンとなる基幹的な歯科病院であるべきだと考え、それを目標に病院改革を進め、病院運営に携わってまいりました。このような基本方針の一環として、本院が歯科医療情報の発信基地となるべく、平成16年12月より年二回本誌「水道橋畔発」を発行し、本号で第12号を数えることになりました。また、平成14年より始めました「口腔外科症例報告会」も、「水道橋病院症例報告会」と名称を改め、毎年盛会の内に開催し今に至っております。

さて、退職にあたりまして、以上のような本院のあり方が、より良い病診連携の構築に少しでも寄与でき、先生方のお役に立てたかどうか、あまり自信はございませ

ん。しかしながら、自分なりに全力投球してきたつもりですので、どうぞお許し願いたいと存じます。

本当に長い間、暖かいご声援とご支援誠に有り難うございました。後任には一戸達也教授が就任致しますので、私同様によりしくお願い申し上げます。

医療連携の更なる発展をめざして —新病院長としてのご挨拶—

病院長 一戸達也



この度、6月1日付けで東京歯科大学水道橋病院長を拝命した一戸達也と申します。所属は歯科麻酔学講座で、金子 譲学長の後任として平成16年8月から講座主任を務めております。これまで、千葉校舎では学生教育関係と千葉病院の医療安全関係の職務を中心に担当して参りました。これからの3年間、水道橋病院長として病院の改革・改善と医療連携の更なる発展をめざして努力して参りたいと思っております。

すでにご案内のことと存じますが、東京歯科大学は創立120周年を期に、数年後に大学本体を水道橋校舎に移転いたします。これからの3年間はまさに移転の正念場の時です。現水道橋病院の健全な運営と同時に、大学移転後の新しい水道橋病院の在り方について、多方面からのご意見を参考にさせていただきながら考え、実践して参ります。

中でも重要なことのひとつに医療連携の更なる推進・発展が挙げられます。柿澤 卓前病院長が医療連携を積極的に推進してこられました。今後は新しい病院、新しい体制の中で、時代のニーズに合わせた様々な手法を駆使して、これまで以上に有機的で患者様に信頼していただける、双方向性の機能分担の仕組みを構築して参ります。

本院は、本学の建学の精神である「歯科医師である前

に人間であれ」に基づき、「思い遣りの心に依る医療」の理念のもとに高品質で最先端の医療を提供し、先生方の後方支援・基幹病院として、先生方との適切な機能分担のもと、その役割を果たして参ります。また本院は医療機関として歯学部や歯科衛生士学校の学生の教育の重要性が今後、一層増して参ります。教職員・学生を問わず、本院に所属するすべての者が医療人としての資質を向上し、病院全体の医療安全を向上させてよりよい病院とするために、常に病院内の医療環境と教育・研修体制の改善・充実に努めて参ります。医療安全等に関する教育・研修につきましては、これも医療連携の一部と考え、可能な限り先生方にもご活用いただけるようにして参りたいと思っております。

本院は、大学病院としての役割を果たすべく教職員が一丸となって努力して参ります。今後とも皆様のご理解とご支援をいただければ幸いです。

第9回東京歯科大学水道橋病院 症例報告会

障がい者歯科 大多和由美

5月27日（木）16:30から恒例となりました東京歯科大学水道橋病院症例報告会を血脇記念ホールで開催いたしました。この報告会は当初口腔外科が中心となり始まったもので、第5回からは水道橋病院全体の症例報告会となりました。第9回を迎えた今回は、100名を超える紹介医の先生方にご参加いただき、活気のある会となりました。

今年の症例報告会は、昨年に引き続き、日常臨床に役立つヒントから医科領域まで幅広く情報を提供したいと考え「知っててよかったPartⅡ」をメインテーマといたしました。まず眼科 ビッセン宮島弘子教授と吉野真未助教から、「炭酸ガスレーザーを用いた眼瞼下垂手術」の報告がありました。本手術は、昨年当病院に導入された眼瞼下垂による視機能の低下に対する日帰り手術です。整容面での患者の満足度も高く、非常に良好な結果が得られているという旨の報告でした。第二講演は、口腔インプラント科 関根秀志准教授による、「失敗症例から考えるインプラント適用時の注意点」と題した報告で、臨床応用開始から40年あまりを経過し広がりを見せている骨結合型インプラントの問題点を、経験した失敗例を多方面から検証し、押さえておくべきポイントを改めて考える報告でした。

休憩の後、第三講演は総合歯科 細川壮平助教による「睡眠時無呼吸症候群における歯科の役割」と題した報告で、平成16年から保険適用となった睡眠時無呼吸症

候群の歯科的治療についての具体的な報告がありました。引き続き第四講演は、山口和彦水道橋病院非常勤講師から「平成22年度の保険改正における障害者の新規項目について」と題し、障害者歯科の充実が保険改正においてなされたことを中心に、疑似解釈についてもわかりやすく解説がなされました。一般講演の最後は、口腔外科 片倉 朗准教授による「日常臨床で注意したい口腔粘膜疾患－チェアサイドでできる対応－」で、口腔がんの早期発見は、我々歯科医師の責務であり、日々



柿澤 前病院長のご挨拶

の臨床で対応すべき診方、対処法などについて解りやすく解説しました。

講演のほかポスター発表も14演題と多く、歯科衛生士部や看護部からも発表があり、休憩時間には活発な質疑応答が行われ、今回の案内とともに盛会のうちに閉会となりました。

リラックス歯科治療外来への 患者さんご紹介にあたり

歯科麻酔科 福田謙一

いつも当院へ患者さんをご紹介いただき、誠にありがとうございます。

タービンの音や麻酔の針刺入の痛みをきっかけとして失神する患者さん、歯科診療台に着席するだけで気分が悪くなる患者さん、またデンタルミラーを口腔内へ挿入するだけで嘔吐反射が出現し、治療が困難な患者さん、このような「歯科恐怖症」と呼ばれる患者さんには、安全な治療を行うために、麻酔薬を使用した行動調整が必要です。精神緩和状態にする精神鎮静法、それでも行動調整が難しければ意識を完全に消失させる静脈麻酔や全身麻酔の応用が必要となります。一方、歯科治療を受けることが、好きな人はあまりいないと思います。多くの人が怖くて痛い歯科治療に嫌悪感があり、可能であれば楽に受けたいと思っているでしょう。「できれば、リラックスした状態や何もわからないうちに治療を行って欲しい。」と希望される患者さんは多くおられます。私たちは、これらの患者さんのことを「リラックス歯科治療希望患者」と呼んでいます。当院歯科麻酔科のリラックス歯科治療外来は、この「歯科恐怖症」と「リラックス歯科治療希望患者」を対象としています。

さて保険適用に関してですが、「歯科恐怖症」は精神鎮静法の適応疾患に入っていますので、歯科恐怖症は、

保険の適用に問題はないと考えます。ただ、どれだけ患者さんの恐怖心が病的であるかが問題なのです。その診断は、過去の保険指導で徹底されましたので、曖昧にはできないのが現状です。そこで、紹介していただく際に、例えば「強い恐怖心があり、そのため血管迷走神経反射（脳貧血様発作）や過換気症候群を起こしてしまい危険である。」ないし「嘔吐反射が激しく、タービンの使用が非常に危険で、治療を中止せざるをえなかった。」など、患者さんがどの程度、病的な歯科恐怖症なのか、歯科治療施行が、いかに困難なのかを紹介状に記入していただければ幸いです。その情報をもとに、当科で過去の心的外傷の調査、心理テスト、自律神経解析、数回のトレーニングなどを行います。そして、病的な歯科恐怖症で麻酔薬を使用した行動調整を行わなかった場合、患者さんにとって著しく不利益になると診断ができれば保険を適用した患者管理を行う手順になっております。ぜひ、ご理解いただき、ご紹介いただければ幸いです。

尚、有病者や障害者のための麻酔薬を使用した全身管理は、保険適用上問題ありません。本年4月の改正より、障害者のご紹介で100点の算定（貴院では診療情報提供料が250点＋100点の加算、当方も100点算定）と病院再診料が69点に上がりましたことを、併せてご報告致します。今後とも、よろしくお願い致します。

口腔ケア外来，リニューアル開設

歯科衛生士部 上島文江

水道橋病院では約10年前より「口腔ケア外来」を開設しておりましたが、今年度4月より新たに口腔衛生管理部門を充実させることとなりました。「口腔ケア外来」では5人の歯周病学会認定歯科衛生士・インプラント学会認定歯科衛生士により、機械的歯面清掃(PMTC)・フッ化物歯面塗布・パウダーポリッシュクリーニングなど、高度なプロフェッショナルケアを提供し、患者さんの口腔健康維持のお手伝いをします。また、インプラント処置後や矯正治療中のメンテナンスを行います（自費診療）。一方ではチェアー3台に13人の歯科衛生士が、歯周疾患の改善を目的に、ブラッシング指導およびスケーリング・ルートプレーニングからなる歯周基本治療を行い、歯周組織の長期安定維持・再発重症化予防のためのメンテナンスを行います。担当歯科衛生士制を採り、患者さんとのコミュニケーションを大切に、オーラルケアのモチベーションを高めると共に、ホームケアとプロフェッショナルケアの両立を実践していきます（保険診療）。

現在、水道橋病院の「口腔ケア外来」を認識されてい

る患者さんは多くないと思われます。予防の重要性を認識して頂けるよう、さらに努力していく所存です。歯科衛生士のスキルアップと地位向上を目指し、学生教育を踏まえて研鑽を積んで参ります。そして、病院内外の先生方のご協力を得て、大学病院としての「口腔ケア外来」を確立していきたいと考えております。自費診療・保険診療に関わらず、是非ご依頼をお待ちしております。



口腔ケア外来
（個室）



口腔ケア外来
（診療室）

千葉病院，水道橋病院合同歯科技工士勉強会の紹介

歯科技工室 平林 剛

歯科技工室では、千葉病院と水道橋病院との合同勉強会を行っています。

最近の歯科界のめまぐるしい発展に伴い、歯科技工の分野でも大きな変化が見られます。

その潮流に乗り遅れないよう、新しい技術や材料を知るところを1つの目標とし、また多くの歯科関係者との交流の場を作ること、普段何気なく行っている技工作業のレベルアップにつながることを期待し始めました。

内容は、

第1回（2/19）松風による

新しい人工歯ベラシア SA の説明
人工歯排列の基本

第2回（4/19）ノーベルバイオケア社による
CAD/CAM について

第3回（6/3）大信貿易による

国際デンタルショーから最先端の歯科治療
口腔内スキャンも含む CAD/CAM

今後も、デンチャーの重合について、模型作りの基

本、インプラントの技工等、広範囲に視野を広げて勉強会を開いていきたいと考えています。

技工士勉強会という名目で行ってはいますが、参加は自由になっております。歯科医師、歯科衛生士の方々はもちろん、大学関係者の方々の多くの参加をお待ちしています。

第6回東京歯科大学外科的矯正治療勉強会 日程等変更のご案内

一昨年より本学の3病院合同で開催している「東京歯科大学外科的矯正治療勉強会」も多くの皆様のご支持により早くも第6回を迎えることとなりました。今回は「開咬症について」討議を行いたいと思います。

お申し込みをいただければ、どなたでも自由に参加していただけますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成22年7月15日 木曜日 17時開始予定

会 場：水道橋校舎 13階 C教室

会 費：5,000円（懇親会費込み）

申込方法：下記までご連絡ください。折り返し案内状をお送りいたします。

東京歯科大学外科的矯正治療勉強会事務局

FAX 03-3213-3421

水道橋界限スケッチ

水道橋病院の玄関先、JR水道橋駅ガードのすぐわきに、大きなくすの木があるのをご存知でしょうか。TDCビル竣工の際に植樹されたものですが、以来二十余年を経て、現在のような巨木となっています。過日、本学創立120周年の記念の行事が執り行われました。今後、130年、140年…と続く本学の歴史において、このくすの木が「水道橋のシンボル」となっていくことでしょう。（文責 柿澤 卓）



水道橋界限の写真募集

水道橋界限の思い出深い写真を募集します。御提供頂ける場合は、水道橋畔発編集委員までご連絡ください。

東京歯科大学水道橋病院 直通電話番号(各科受付)一覧	
総 合 歯 科	03-5275-1721 1722
口腔インプラント科	03-5275-1760
小 児 歯 科	03-5275-1723
障 が い 者 歯 科	03-5275-1723
矯 正 歯 科	03-5275-1724
口 腔 外 科	03-5275-1725
歯 科 麻 酔 科	03-5275-1851
眼 科	03-5275-1856
内 科	03-5275-1926
放 射 線 科	03-5275-1953
FAX(各科共通)	03-3262-3420

水道橋病院 診療案内	
初 診 受 付	平日、土曜とも 午前9時から午前11時
診 療 時 間	平日 午前9時から午後5時 土曜 午前9時から午後12時
休 診 日	第2土曜、日曜、祝日、 本学創立記念日(2月12日)、年末年始

編 集 後 記

・本号がお手元に届くころには、サッカーワールドカップ南アフリカ大会が山場を迎えようとしているのではないのでしょうか。参加国それぞれにとって、新しい歴史がページ書き加えられていることと思います。大会参加の常連となった「サムライ・ブルー」の健闘に期待がかかるところです。

・翻って本学は、今年、創立120周年を迎えました。5月には、記念学会、記念式典などが盛大に執り行われました。予定されておりました行事が全て滞りなく実施され、学内全体のざわついた雰囲気は少しずつ落ち着いてきているようです。次の130年、140年、150年…という節目に向けて、また一つひとつ歴史を積み重ねていくことになります。

・サッカー日本代表のメンバーには連続出場の選手とともに、初出場・若手が多数起用されました。「日本サッカー」の歴史は、世代交代で次々と入れ替わる選手たちによって作り上げられています。個人の高い能力に加えて、組織力を高める行動が一貫して求められていることでしょう。

・本号では、病院の「顔」であります病院長の退職と新任をお知らせすることとなりました。当院の歴史におけるひとつの大きな節目となります。長らく水道橋において職務を全うされた前病院長から、水道橋への帰帰を司る次世代病院長へと、本学の校風がリレーされていきます。当院・教職員一同、心を新たにしています。

水道橋畔発編集委員

編 集 委 員 長 柿澤 卓

編集副委員長 関根秀志、高久勇一朗

編 集 委 員 高野正行、古澤成博、福田謙一